W-1-1　フランス語移動表現における経路表示と類型論

守田 貴弘
(京都大学)

1. フランス語の移動表現—実験以前の話

1.1 類型論におけるフランス語

Talmy (2000) による分類のまま，基本は動詞枠付けとされる．

(1)

La	*bouteille*	*entre*	*dans*	*la*	*glotte*	*en flottant*
DEF.SG.F	bottle	enter.PRES	in	DEF.SG.F	cave	float.GER

'The bottle enters the cave, floating'

entrer: 経路動詞で主動詞，flotter：様態動詞でジェロンディフの形．逆は不可能．

1.2 フランス語をめぐる争点

主動詞以外で経路が表示されることがあること (cf. Beavers et al. 2010)，経路を接頭辞で表示する語が存在することなど (cf. Kopecka 2006)，部分的に動詞枠付けとは異なるパターンがあることが指摘されている (だからといって前置詞による経路表示は衛星枠付けとも言えないのだが)．

(2)

a.

Pierre	*a*	*marché*	*jusqu'à*	*la*	*tour*	*Eiffel.*
Pierre	AUX	walk.PP	as.far.as	DEF.SG.F	tower	Eiffel

'Pierre walked up to the Eiffel tower.'

b. s'envoler 'en-: from, voler: fly', accourir 'a(c)-: to, courir: run, emprisonner 'em-: in, prison, -er: verbalize'.

類型論的地位を問題にする問い方：「両方の性質を兼ね備えている」「頻度の割合や，どちらが一般的な表現方法かというとき，動詞枠付け」という，「割合をどう語るか」という答え方に落ち着く．

1.3 本研究の目的

1. 基本的には共同プロジェクトの成果の中間報告 (被験者数がこれから増える) であり，経路によって構造が変わることを明らかにする．「フランス語は両方の性質があるが，動詞枠付けの色が濃い」という現状の認識に至る理由を，「どのような移動の局面のときに?」という観点から分析する．
2. 本ワークショップで提示する「主動詞 vs. 主動詞以外」という対立には境界越え，FRM/TO，上下，場所的という経路の性質に関する特徴づけが含まれる．フランス語動詞の分析を通して，主動詞の使われやすさには各経路における移動の他動性，意志性，アスペクトといったその他の要因がさらに関与することを示す．

2. 実験と結果

2.1 方法

- (今のところ) 被験者 6 名．男 2，女 4，平均年齢 21.3 歳，2016 年 11 月 28 日〜30 日の間に Institut National des Langues et Civilisations Orientales にて実施．
- 録音を書き起こし，移動表現に関与している部分のみを抽出して分析対象とした．

2.2　結果

全体的な結果：ほとんどすべての経路について主動詞が使われるが，「主動詞 vs. 主動詞以外」の観点から見たとき，割合は大きく異なる．

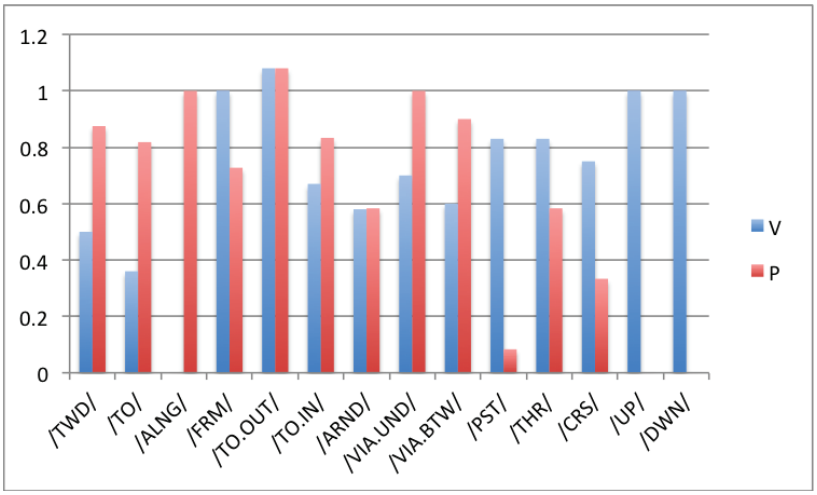

図 1　各経路を表示する主動詞と前置詞の割合

- 前置詞のみ：ALNG (*le long de*)
- 動詞のみ: UP (*monter* ‘ascend’, *grimper* ‘climb’, *gravir* ‘strugle up’, *escalader* ‘scale’), DWN (*descendre* ‘descend’, *dévaler* ‘hurtle down’, *tomber* ‘fall’)
- 動詞のみ，前置詞のみ，両方を使うことがある：その他の経路すべて

2.3　各経路の詳細

/TO/, /TWD/ (動詞のみ，動詞 + 前置詞．/TWD/では様態動詞 +vers も可能)

/TO/のとき，前置詞は à だけではなく，jusqu’à ‘as far as’, vers ‘toward’ なども使われる．動詞を使うとき，「動詞のみ」と「動詞 + 前置詞」の両方がある．

(3)　a. *Un homme { marche vers / s’approche d’ } une table.*
INDEF.SG.M man { walk.PRES toward / approach of- } UNDEF.SG.F table
‘A man walks toward a table.’

b. *Il court pour rejoindre la table en bois.*
he run.PRES for join DEF.SG.F table in wood
‘He runs in order to reach the wooden table.’

/ALNG/ (すべて前置詞)

潜在的には longer‘go along’ という動詞もあるが，非常に場所的な経路であるため，経路の配置を説明する fictive motion などで使いやすい．

(4)　a. *Un homme marche le long d’un cours d’eau.*
INDEF.SG.M man walk.PRES along-INDEF.SG.M course of-water
‘A man walks along a flow of water.’

b. *Au chemin qui longe la mer, couché dans le jardin...*
at.DEF.SG.M road REL go.along.PRES DEF.SG.F sea lay.PP in DEF.SG.M garden
‘On the road that goes along the sea, laid in the garden...’　(*Nantes*)

/FRM/ (前置詞のみ，動詞 + 前置詞，動詞のみのすべてのパターンがある)

/TO.OUT/を表す sortir ‘exit’ と一緒に使われる de ‘of’，partir ‘leave’ と一緒に使われる de ‘of’ が中心．quitter ‘leave’ を使って動詞のみで表すこともある．

(5) *Un* *homme* { *part* *d’* / *quitte* } *une* *table* *en courant.*
INDEF.SG.M man { leave.PRES of- / leave.PRES } INDEF.SG.F table run.GER
‘A man leaves (from) a table, running.’

/TO.OUT/, /TO.IN/ (動詞 + 前置詞のみ)

動詞 sortir ‘exit’, entrer ‘enter’ が使われ，前置詞を必ず伴う．潜在的には INTO の意味を含んだ他動詞 pénétrer ‘penetrate’ などがあるが，データ中には (ふさわしい状況がそもそも) ない．

(6) a. *Un* *homme* *rentre* *dans* *une* *maison.*
INDEF.SG.M man enter in INDEF.SG.F house
‘A man enters a house.’

b. *Un* *homme* *sort* *d’un* *bâtiment* *en marchant.*
INDEF.SG.M man exit.PRES of-INDEF.SG.M building walk.GER
‘A man exits a building, walking.’

/ARND/ (前置詞のみ，動詞 + 前置詞の両方)

位置変化の様相がはっきりしない場所的経路で，様態動詞 +autour de ‘around’ (前置詞のみ) と tourner autour de ‘turn around’ (動詞 + 前置詞) の両方が可能で，割合は半々．

(7) *La* *personne* { *tourne* / *court* } *autour* *d’un* *palmier.*
DEF.SG.F person { turn.PRES / run.PRES } around of-INDEF.SG.M palm.tree
‘The person turns / runs around a palm tree.’

/VIA.UND/, /VIA.BTW/ (動詞 + 前置詞のみ)

グラウンドとの位置関係が問題になり，非常に場所的．通過の意味は passer ‘pass’ が担い，グラウンドとの位置関係は前置詞 sous ‘under’, entre ‘between’ が担い，分業がはっきりしている．

(8) a. *Un* *homme* *marche* *(...)* *et* *passe* *sous* *un* *pont.*
INDEF.SG.M man walk.PRES (...) and pass.PRES under INDEF.SG.M bridge
‘A man walks, and passes under a bridge.’

b. *Un* *homme* *court,* *passe* *entre* *deux* *arbres* *et* *puis* *(...)*
INDEF.SG.M man run.PRES pass.PRES between two trees and then (...)
‘A man runs, passes between two trees and...’

/PST/, /THR/ (動詞 + 前置詞のみ)

動詞 passer ‘pass’ 自体には中間経路を表す vector しか含まれておらず，通過点を表すためには passer par/devant ‘pass by/in front of’ のように前置詞で補う．

(9) *Elle* *passe* *devant* *une* *boîte aux lettres* *rouge*
she pass.PRES in.front.of INDEF.F.SG mailbox red
‘She passes in front of a red mailbox.’

/CRS/, /UP/, /DWN/ (動詞のみ)

他動詞で表されるため前置詞が使われない．DOWN と UP を表す動詞の種類は豊富で，様態を

含んだものが多い．

(10) a. *Une femme traverse l'allée dans le parc.*
INDEF.F woman CROSS.PRES DEF.M-path in DEF.M parc
'A woman crosses the path in the park.'

b. *Un homme gravit une pente en courant, et puis ensuite, il arrive à son sommet et descend tout petit peu.*
INDEF.M man climb INDEF.F slope run.GER and then subsequently he arrive.PRES at its summit and descend.PRES all small little
'A man climbs up a slope running, and he arrives at the top and descends a little bit.'

3. 分析

3.1 「主動詞 vs. 主動詞以外」の対立の視点から

潜在的にはすべての経路で動詞の使用が可能ではあるが，頻度の面から主動詞率を経路マップスケールにあてはめると図 2 のようになる．

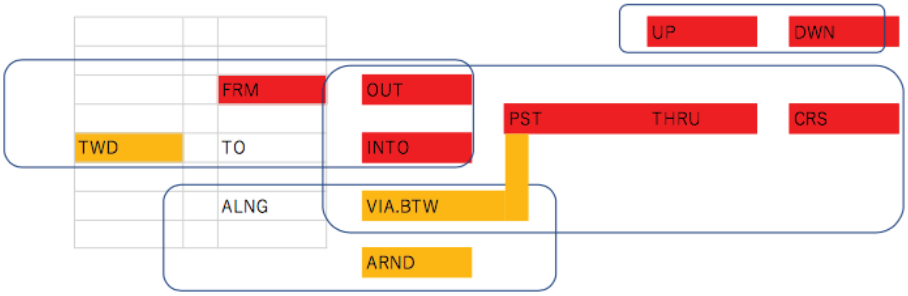

図 2　経路マップスケール (赤 66%，黄 33% 以上)

- ALNG, ARND, TWD, VIA.BTW のような，経路というより場所的なときには主動詞率が低く，なぜか分からないが TO も低い．前置詞 vers (方向) と à (着点・場所) の区別に厳密ではないところが関係している可能性がある．
- 個別言語の事情を問題とするならば，「動詞のみ」の場合と「動詞 + 前置詞」の場合で何が違うのかという点は説明を要する．動詞単独で経路を表す領域は UP, DWN, CRS, FRM, TO など，かなり広い範囲にまたがっており，「上下は動詞のみ」「場所的なものは前置詞のみ」「その他は動詞 + 前置詞」のようなきれいな分布ではない．

3.2 終結性との関係

ALNG, TWD といった非終結的な経路のときに S 言語型になるというのは Aske (1989) の指摘した通り．それならば UP や DWN でも同じ構造になってもおかしくないが，そうなっていない．

(11) アスペクトによる移動動詞の分類 (cf. Morita 2009)

a. Trajectif (経路): 通常は telic．入る，出る，着く，去る，達する，越える，抜ける，過ぎる...entrer, sortir, arriver, partir, atteindre, parvenir, franchir, traverser...

b. Trajectionnel (経路–方向)：telic にも atelic にもなる．上る，降りる，通る，戻る，逃げる...monter, descendre, passer, s'éloigner, s'approcher,

c. Directionnel (方向)：atelic だが方向性を含む．向かう，進む，追う...avancer, cheminer, circuler, filer...

d. Mode (様態)：atelic で方向性は含まない．日本語では「連用形 + 回る」などが可能なことが多い．歩く，跳ねる，走る，這う，転がる，泳ぐ...marcher, courir, déambuler, errer, flotter, rouler, rôder...

(11a) が「もっとも経路動詞らしいもの」だが，図 2 では幅広い範囲にまたがる．atelic にもなりうる DWN/UP 系の動詞と常に atelic な ALNG/TWD でまったく別の結果になる．telic なものほど主動詞で表されやすく，atelic なものほど主動詞以外で，といった相関はない．

3.3 各経路局面における動詞の多様性が表すもの

arriver, partir, entrer, sortir, tomber は典型的な非対格動詞とされるもの．passer sous/entre/devant/par などで使われるときの passer，移動が完了したときの monter, descendre も同様の扱いが可能．過去形をつくるときの助動詞が être 'be' という共通性がある．

DWN 系統の動詞については以下のような特徴がある．

(12) a. descendre: telicity によって avoir, être を区別する (être のときには前置詞句を取れる).

b. dévaler: telicity に関わらず avoir しかとらない．受動化できる．(cf. (13))

c. tomber: être しかとらない．移動のプロセスより，非意志的な移動の結果が問題であり，通常は非対格動詞に分類される．

(13) *La première descente de la Brèche des Droites dans la massif du Mont-Blanc a été dévalé pour la première fois en snowboard,*
DEF.SG.F first dowhhill of DEF.SG.F Brèche of.DEF.PL Droites in DEF.SG.F massif of.DEF.SG.M Mont-Blanc AUX AUX.PASS rush.PP for DEF.SG.F first time by snowboard,
'モンブランにある溝 (のような通路) がはじめてスノーボードで滑り降りられた'

(12) には既に複数の要因 (他動性，アスペクト，意志性) がはたらいているが，「動詞のみ」と「動詞 + 前置詞」の使い分けに関して，同様の特徴づけが可能だと考えられるケースは多い．

位置変化の結果とプロセス

UP で使われる monter, grimper は telicity によって être と avoir の使い分けが起こる．ALNG, TWD などでは起こりえない．動詞のアスペクトで atelic になるかならないかというより，現実の移動がどうなり「うる」かという点が重要．

(14) *Il a monté la pente. / Il est monté sur le talus.*
he AUX ascend.PP DEF.SG.F slope / he AUX ascend.PP on DEF.SG.M bank
'He ascended the slope. / He got on the bank.'

グラウンドに対する影響，移動主体の意志性

同じ「テーブルから離れる」状況に対して partir de と quitter の両方を使うことができるが (cf.(5))，だからといって同じ意味とも言えない．

(15) a. (台風の後の会話の中で)

*Amido est parti. / *Amido a quitté la maison.*

amido AUX leave.PP / amido AUX leave.PP DEF.SG.F house

'Amido has gone.'

b. (ホテルをチェックアウトするときにフロントで)

*Je vais partir / *Je vais quitter l'hôtel.*

I go.PRES leave / I go leave DEF.SG.M-hotel

'I'm going to leave.'

位置変化のみを問題とするとき，典型的には非対格動詞を使う (非対格動詞が使われているので，無標の位置変化が問題になっていると言える)．経路だけではなく，グラウンドに対する影響や有生性 (または意志性) などがあるときには前置詞を介さない他動詞が使われる．

他の言語の「主動詞率」に関与する可能性

類型論の対象は colloquially frequent なもので，英語の latinate はそこから外れるという考えを Talmy は示しているが，「同じ経路局面に対する別の意味」を表すときには動詞が使われる可能性はある (e.g. into と enter の違いは語源や colloquial かどうかというだけではない可能性もある)．「主動詞率」は経路の種類だけではなく，他の要素が関与している可能性があるということであり，少なくともフランス語では，その可能性は部分的には「動詞のみ」と「動詞 + 前置詞」の使い分けとして現れている．

4. 結論

- 「主動詞 vs. 主動詞以外」という対立で考えたとき，フランス語では本来的に非終結的な事象のときだけ前置詞での経路表示が使われ，ほとんどに動詞が使われる．
- 経路動詞が豊富なフランス語においては，経路の種類に加えてグラウンドの受影性や移動物の意図性，アスペクトなどで動詞と動詞 + 前置詞の使い分けが起こる．他の言語でもこれらの要因が主動詞率に関与する可能性がある．
- 経路の特徴づけのためには，おそらくアスペクトは決定的な要因ではなく，場所的に捉えられるか (必然的に非終結的)，変化として捉えられるか (言語的には終結／非終結のどちらでもありうる) といった概念的要因を探求する必要がある．

参考文献

Aske, J. 1989. Path Predicates in English and Spanish: A Closer Look. *BLS* 15, 1-14.

Blomberg, J. 2014. Motion in Language and Experience: Actual and Non-actual Motion in Swedish, French and Thai. Ph.D Dissertaion, Lund University.

Kopecka, A. 2006. The Semantic Structure of Motion Verbs in French: Typological Perspectives. In M. Hickmann & S. Robert (Eds.) *Space in Languages: Linguistic Systems and Cognitive Categories* 83-101, Amsterdam/Philadelphia: John Benhamins.

Levin, B., & M. Rappaport Hovav. 1995. *Unaccusativity*.Cambridge/MA: The MIT Press.

Morita, Takahiro. 2009. La catégorisation des verbes de déplacement en japonais et en français. Ph.D Dissertation, EHESS.

Talmy, L. 2000. *Toward a Cognitive Semantics vol.2: Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge/MA: The MIT Press.